

初心運転者への思いやりと融雪期の安全運転

これからは、各種学校を卒業された方などが、新たに運転免許を取得し、交通社会に仲間入りする時期を迎えます。

初心者マークのドライバーが安心して運転できるよう、思いやりのある運転を心がけましょう。

一人ひとりがルールを守り、思いやりのある行動を実践することで、交通事故のない安全で安心な社会を目指しましょう。

【ドライバー、同乗者の皆さんへ】

- 朝晩の時間帯や日陰、橋の上で路面の色が黒っぽく変わっている場所などは、凍結している可能性があります。速度を抑制し、急ブレーキ、急ハンドル、急加速など「急」のつく運転をしないよう心がけましょう。
- 下り坂やカーブの手前では、あらかじめ十分に減速、シフトダウンし、エンジンブレーキを活用した運転をしましょう。
- 「疲れ」を感じた時は、運転を中止して休憩し、居眠り運転やうっかりぼんやり運転による交通事故を防止しましょう。
- シートベルトはもしもの時の命綱です。「近所までだから」、「慣れている道だから」と油断せず、後部座席を含めたすべての座席でシートベルトを必ず着用しましょう。
また、6歳未満の幼児を乗車させるときは、必ずお子様の体格にあったチャイルドシートを取り付け、ゆるみなどが生じないように着用させましょう。
- デイ・ライト（昼間点灯）は自らの車の存在を他の車両や歩行者、自転車の利用者に目立たせ、交通事故防止の効果が期待できるので、率先して実践しましょう。

【歩行者の皆さんへ】

- 夜間に外出するときは、明るい色の服装と夜光反射材を着用しましょう。
- 道路を横断しようとしている子供や高齢者を見かけたときは、積極的に声をかけるなど、安全に誘導してあげましょう
- 道路やその付近で遊ぶ子供を見かけたときは、安全な場所で遊ぶように声をかけ、子供を交通事故から守りましょう。

◎問い合わせ先

北海道環境生活部くらし安全局道民生活課
交通安全グループ

☎ 011-204-5219（直通） FAX 011-232-4820

春の大雪について

3月を迎えて、肌を突き刺すような厳しい寒さは峠を越えつつあります。

これからの季節は、日中と夜間の気温差が大きくなり、道路や歩道では日中の雪融けでできた水たまりが、夜には凍りついて滑りやすくなるため、ドライバー、歩行者共に気を遣うところでもあります。

暖かさが目立ち始めますが、実は雪がまとまって降るのも3月が一番多く、1日で降る量では1月や2月より多くなる日もあります。

3月の天気の特徴として、日本の南海上で発生した低気圧が発達しながら北海道に接近することが増え、時に台風並みに発達して広い範囲に大雪をもたらします。

厳冬期に降る雪は、シベリアからの寒気を伴った季節風によるもので、たくさん降る場所が特定地域に限られたり、雪自体が軽く綿のようであることが特徴です。

低気圧から降る雪は、通るコースによっては、広い範囲で短い時間に、大量の雪を降らせます。雪自体も水分を含み重たいのが特徴で、多いところでは1日で50センチ以上にもなり、除雪作業が追い付かず渋滞や通行止めなどの交通障害が起きやすくなります。

このように、3月はドカ雪になりやすい時期でもありますので、引き続き雪には注意が必要で、気象台では、12時間で50センチ（市町村によっては40センチ）の雪が降ると予想した場合に大雪警報を発表しています。

気象警報等の気象情報は、テレビやラジオの番組やデータ放送、またインターネットで確認することができます。

◎問い合わせ先

旭川地方気象台

☎ 0166-32-7102

旭川地方気象台ホームページアドレス

<http://www.jma-net.go.jp/asahikawa/>